

I 経営の重点に関わること		I 経営の重点に関わること		評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない) ○成果 ●課題		自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標)
1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明						
元気いっぱい 笑顔いっぱい 友達いっぱい	心はずむような「おもしろいこと」をやってみよう	教材や素材等、子ども達がどのように使うのかを予想し、保育者が自らを試してみながら準備をしている	今、子どもたちが楽しんでいる遊びが今後どのように展開していくのか、どうつながっていくのかを考えながら環境を変化させ、準備をしたり、職員研修で手作りおもちゃを作ったりすることで、各々が試したり工夫したりしながら教材を用意することができた。子どもたちの遊びを予測し、素材、教材等をだすタイミングや、それに対応できる準備については、今後の課題である。	B	A			保育参観等で園の見学に行くと、どの子も人懐っこく話しかけたり、遊びに誘ったりしてくれている。遊びを見ていると、試したり、考えたりしている姿が見られており、職員の環境の準備や声掛けができていて、遊びが発展し、質の高い保育が展開されているのだと感じている。	・遊びの姿を異年齢の職員で共有したり、語ったりする場を作っていく ・教材研究等を行っていく、いろいろな種類の教材、教具、自然物を用意できるようにしていく
		子ども一人ひとりの思いを受け止め、遊びの経過と一緒に楽しめるような声掛けをしている	子どもかへの問いかけに対し、大人がすぐに応えるのではなく、友達に聞くように促したり、一緒に考えたりしていくことで、遊びの過程も楽しめるようになりつつある。また、遊びの経過と経緯を認める言葉かけをすることで、もっとやってみようという気持ちにもつながっている。今後は、その遊びが広がるような声のかけ方や、一緒に楽しむための援助や準備等をしていくようにしていきたい。	B	A				
		それぞれのクラスの遊びが十分に行えるように、園庭環境について職員間で連携が取れている	次の週のクラスの予定を書き込むホワイトボードを活用することで、遊びの場の確保や活動の周知ができ、遊びの拠点作りや、次の遊びにつながるような環境について、クラスの職員間で共有することができた。全体での共有や連携、園庭の使い方や環境については、まだ課題が多い。	B	A				

II 各領域に関わること		II 各領域に関わること		評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない) ○成果 ●課題		自己評価	関係者評価	関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標)
大項目	中項目	評価指標	園説明						
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びの中での学びや、これまでの経験や踏まえた環境を用意することで、子どもたちの活動や遊びが展開されている	○先行体験をふまえて、PDCAサイクルに基づいた週日案を活かしたりしながら環境構成に取り組んだ。子どもの興味や関心、夢中になるポイントを明確にし、子どもも理解を深めることで、子ども一人一人に沿った環境が用意でき、遊びが発展する様子が見られた。 ○子どもの実態 (姿) を捉え、その姿に合った環境の準備ができる様に、会議や事前研、事後研の持ち方の工夫をして、日誌やおたより等)子どもの遊びの姿を書き記す等を行うことで、職員が子どもたちの姿を読み取ることができつつあり、子どもたちも前日の遊びの続きをしたり、じくく遊ぶ姿が見られるようになった。今後の課題としては、園全体でその姿を共有すること、日々の振り返りを行うことである	A	A			・二園ともある環境施設を使って、質の高い保育を行い、子どもたちも今みたいという気持ちを上手に引き出しながら、質の高い保育を行っている。 ・公園保育を行った時も、どの子も人懐っこく話しかけてく、普段の教育の成果だと思う。また、発達段階に応じた職員の仕掛けが工夫されていて、いいですね ・子ども一人一人の特徴や、気持ちなどをよく捉え、適切な声掛けや対応ができていると思う ・やればできる!という子どもたちの思いや取り組み、小中につなげていきたいですね	・会議等で、子どもの様子や対応方法について共有していく ・戸外、室内どこでも同じ遊びができるような、環境を用意していく ・子どもたちの興味、関心や気づきにつながるような環境を考 えていく ・保護者への伝達忘れを防ぐため、夜牧あつめた時には、忘れずにファイルに記入し伝達できるようにする ・園つたことがあったとき等一人で悩まず、職員間で話せるようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや、生活リズムを考慮し、その子の気持ちに寄り添った援助を行うように努めている	○保護者との会話から、家庭の様子や子どもの育ち、体調等を把握することに努め、職員間で情報共有も行ってきた。職員が子ども一人一人に必要な援助を共有し、同じ対応ができるようになりつつある。 ○個々の生活リズムに合わせた対応 (保育時間の長い日の睡眠、食事等の配慮など) や、気持ちよく過ごせるような配慮 (仕切り) をする。一人になれる環境をつくる等) をするなど、子どもの気持ちに寄り添うよう心掛けた。しかし、支援が必要な児への対応や、支援の仕方についての共有が課題である	A	A			・素材の出し方の工夫や、整理整頓をする ・季節の遊び等記入された資料や、自分の経験を記入した資料を配布したりする ・職員と一緒に、教材研究を行う時間を作っていく	
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたち一人一人の興味や関心に合わせた素材や教材が提供できるように、職員が教材研究を行っている	○子どもの遊びの姿を見取り、発達段階を考慮したり、職員間でアイデアを出し合ったりして、教材提供ができていて、しかも職員自身の教材そのものへの知識や技能が不足している場面もあった。教材研究を十分に行う必要性を感じている。 ○子どもの遊びの姿に合わせ、いろいろな素材や教材の準備をしたり、職員が教材研究をしたりすることで、子どもたちが試行錯誤しながらも、イメージしたことを形にしようとする姿につながってきた。その姿の共有や、環境や子どもたちの遊びとの間にズレが生じたときに、どのように近づけていくか、また、職員の教材研究をする時間の確保が課題である	A	A			・園全体で共有すること、日々の振り返りを行うことである	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員が自ら行動できる力を身につけられるように、様々な状況想定した訓練を行っている	訓練日時を事前に知らせず、突発的な訓練を実施することで、子ども、大人共に災害時にどの様に動くかを確認するよい機会となった。しかし、どの様なところが困ったのか、クラスリーダーが不在の時はどうするのかなど反省や改善点について話し合う時間を設けることができていないため、会議等の機会を使って、周知していきたい。また、防災倉庫や備蓄の確認、AEDの使い方等を行ったことができなかった職員もいるので、定期的に行ない全員が参加できるようにしたり、備蓄食料の作り方講習などを行い、保育者も災害時に対応できるようにしていきたい。	B	A			時間を知らせずに突発的な訓練を行ったり、月一回訓練を行うことで、災害時にどのようにすればよいのか、身につけていくのにも役立つと思う。小学校も、机の下に隠れる等1年生が一番上手に参加ができています。来年度も、小、中学校と連携を図りながら、合同での訓練も行っていきましょう。	・今後もいろいろな想定をフェイクシミュレーションし、職員間の連携や動き等に活かせるようにしていく ・出てきた反省等について、職員間で話し合う時間を作っていく ・AEDの使い方について、全職員に周知できるようマニュアル ・感染症が流行する前に、対応の仕方や処理の仕方等について話し合う時間を設ける ・ハンカチ、ティッシュを使う機会を設けていき、自分で始
	(1)健康教育の充実	元気に園生活が送れるように、また、手洗いうがいなどの生活習慣が身につくように、発達に合わせた指導を行っている	視覚支援 (表示、絵本、紙芝居等) や個別指導、声かけ等を毎日くり返し行うことで、日々の生活の中で必要な習慣が身につくように (手洗いうがい等) をし、保育者がしていないと難になることも多い為、手洗いうがいの見届けをしかりおこなっていく。また、コロナだけでなく、嘔吐下痢など他の感染症の対応の方法についても全園で共有していくようにしたい。	B	A			園を訪問すると、いろいろなところで、視覚でわかるような工夫がされている。トイレレットペーパーの長さや使い方など、小、中学校でも取り入れられそうなものもあった。学校でも、同じ支援ができていくといいと思う。	・子どももわかるように、表示の絵や写真を統一していく ・全職員が、同じ接し方や支援ができるように、会議等で報告し、周知していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ユニバーサルデザイン (写真や絵等) を取り入れ、誰もが見ればわかるような、環境となっている	写真や絵の表示があることで、トイレレットペーパーや、トイレのスリッパの使い方など自分たちで気をつけるようになってきている。スロープの入り口部分に視覚的な支援ができていないところもあるため、引き続き整えていくようにしたい。また、支援が必要な児への関わり方も、職員間で共通認識を図り、子どもたちが安心して過ごせるように、人的、物的に整えていきたい。	B	A				
	(1)組織体制の充実	職員一人一人が自分の役割に責任をもち、また、互いの良さを認め合いながら連携をとり、情報を共通理解することで、働きやすい環境を整備している	○職員会議だけでなく毎日の打ち合わせや、すぐなミーティング等、意見交換やアイデア、情報共有の場があり、分掌担当者だけでなく、職員間で連携を取りながら、行事の準備を進めている。「自分ごと」と捉えた行動を更に心がけていきたい ○朝の打ち合わせや会議時に、行事の進捗状況や園内で起きた事故の報告をしたり、書面の報告で分かんないところや、疑問に思ったことがあったときには聞きに行くよう心掛けることで、情報の共有がよりやすくなっている。自分のクラス以外との共有ができていないことが多かったり (縦、横のつながり) 、アレルギー児が休みの時等の変更があった時に、給食室と連携ができていないこともあるので、どこの様にしているのかを考えていきたい	A	A			・幼児教育への注目が集まる中、先生方も大変だったのではないかと、そんな中で「情報共有」をし、よく頑張っていたのでは、園長先生と、園長、副園長、担任と、どの先生に聞いても、児の同じ姿が語られていた。職員間で共有ができていたと感じた	・会議等や、お昼寝の時間を使って、情報の共有をしていく ・朝の打ち合わせに参加しない職員が、話した内容を各学年や幼児、乳児などによって伝達して ・自分が休んでいた間の、打ち合わせノートに目を通す等一人一人が情報を共有する意識を持つようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	子ども達が「やってみよう」「あしたもやってみよう」と思えるような環境となるように、職員間で話し合いを持ち、話したことを実践している	公開保育を行うことで他クラスの保育を知ることができたり、事後研修で出てきた課題を自分事として捉え話し合いをすることで、自分の保育に置き換えて考えたり、実践したりできるように、「やってみよう」「明日もやってみよう」の姿につながるような環境になってきている。子どもの姿や遊びや環境にズレがあったときに、課題を意識したり、どのように保育を進めていくのかを考えることが今後の課題。また、クラスの保育者間で、遊びの展開や課題、環境について話し合う機会を作ろうとしているが、話し合う時間が少なかったり、環境の準備が間に合わないことがあるため、どのように時間を作っていくか等、職員間で話し合っていく。	B	A			公開保育等よくやっていると。今後も継続して行っていくことが、大事なのではないかと。	・自分事として捉えられるよう、話し合いの持ち方を工夫し (時間、場所、人数等) 園全体で考えていけるようにする ・子どもたちの遊びから次の日の環境を考え、環境の準備をしていくようにする
	(1)教育・保育環境の充実	園庭環境について、月一回話し合いを行い、朝の遊び出しの環境や、明日の遊びにつながるような、素材や教材、教具の準備ができています	クラスや幼児、乳児会議時や公開保育時に、遊び出しの環境等について話し合いの時間を持つことで、子どもたちが前日の遊びの続きや、やりたい遊びをすぐに始めることができ、遊びのつながりができやすくなりました。遊びの準備不足であったり、職員間で遊びや環境の共有や、乳児、幼児の連携を意識した環境の準備をすることについては今後の課題である。	B	A			話し合いの時間を設けることは難しいと思うが、隙間時間を活用するなど、今後も工夫をしておこなっていくとよいのでは。	・物を大切に扱おうとする気持ちが芽生えるように職員も子どもたちと一緒に玩具の片付け等していく ・園庭の遊びの場 (拠点) について職員会議などで話し合い、確認していく ・遊びに足りないものを自分たちで見つけ、遊びを勧めること
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの遊びの様子を、ポートフォリオにして保護者に発信し、遊びの中から学びや、成長の喜び等の共有ができています	毎日の園での様子を知らせる掲示物に、遊びの姿が伝わりやすいような写真を増やすなどの工夫をしたことで「こんなことしただね」等親子で会話する姿が見られたり、それを見ながら子ども同士で遊びを振り返っていたり、遊びや学び、喜びの共有ができてきた。送迎に祖父母が来る家庭も多いため、掲示を見ることができると保護者への対応や、乳児クラスは、どの様にすれば定期的なポートフォリオの作成ができるかを考えていくことが必要。また、毎日の献立や給食の展示、レシピの種類を増やしたり、レシピを置く場所を変更したりしたところ、持ち帰る保護者の姿が増えてきた。持ち帰って、作ってみたいのか、作ってみたいのか等の話も聞けるようになった。	A	A			園内に入ると、写真などで行事等の表示がされていて (ポートフォリオ等) わかりやすく工夫がされている。先生たちの反省を活かして、引き続き行っていくとよいのでは。	・玄関、ホワイトボード掲示後に、クラス前や廊下等に貼っておき、いつでも見ることができるようしておく ・1年間のポートフォリオが見られるようにファイルに閉じて置いておくなどの工夫をしていく
	(1)近隣の園との連携の推進	三校二園の交流を通して、東豊田を意識した教育・保育活動を展開し、幼、小、中学校との交流が継続的に図れる状態になっている	TOHO会議への参加、合同避難訓練やチューリップの球根植え、体験授業、クリスマスカードのプレゼント、授業参観、公開保育への参加等、小、中学校の取り組みや、児童、生徒の様子を知ることができた。また、保育内容や子どもたちの遊びの姿を見ることができた。職員も積極的に小、中学校と関わっていくことで、情報を交換したり、地域の協力や等を通じて、互いの教育や保育の理解にもつながった。コロナ感染症により、子ども同士の交流の機会がほぼなかったため、今後も継続的な交流ができる様、連携を図りながら進めていきたい。	A	A			・幼児教育への理解を深めることで小学校1年生への見方や指導の具体も変わってくる。幼児教育での学びや成長を基に、スタートからキッズの保育方を考えていきたいと思う ・夏の研修、公開授業・保育時に職員の交流を図ることができた。よかった。子ども同士の交流も再開してほしいと思う ・年長児にとって、小学校への期待と不安は本当に大きいと思うので、まずは学校の施設利用等を通し、身近に感じてもらうと思う	・現場の職員同士が、意見交換できる場を設ける ・地域の事を知ることができるよう、今後も学校や園のおたよりの配付を継続して行っていくようにする ・子どもたちが、学校への興味を高められるように今後も学校の施設利用等継続して行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の人材や環境を取り入れた行事や活動が行われ、また、小中学校のランド利用等を通して、子どもたちが地域に親しみが持てるようになっている	地域にある施設の利用や (消防署分署、交番、公園、スーパー) への買い物、静岡ガスや静岡大学へのどんぐり拾いなど、散歩時にもったお米の苗を年長児が育ててお米に食べたり、地域の方に焼き芋を焼いてもらったり、地域資源や人材を活かした行事や活動が、地域の方の協力のもと実施することができ、子ども達のが動く豊かな体験となった。今後は、コロナ禍でもできるような方法を模索しながら、地域の施設への訪問や、小学校と連携した交流も感染症対策をとりながら行っていく。	A	A			・地域の各施設によい出かけているので、活動ができていることがよくわかる。その時に地域とどこかお手伝いできればと思っている ・TOHOでの活動が多いため子ども達も小学校や中学校への興味も小さいうちから持っていることは他の地域とは違うのではないかと ・園同士の交流はとれているのか。そこもできていくとよいのでは	・地域の方やボランティア等へ散歩に出かけていき、職員も地域の事を知ったり、地域の方と挨拶を交わしたりしていく ・今後は、静岡大学や静岡ガス等の地域の施設と連携を取りながら、施設利用させて頂く